



トキワヒガシ No.48

早いもので一学期も今日で終わり。明日からは、四十日間の夏休みに入ることになります。一学期間中、大きな事故や病気もなく、子供たちが元気に過ごすことができたことに安堵しています。見守り隊や交通当番など、子供たちの安全のために、多くの方に尽力していただきました。ありがとうございます。

さて、前回の校長だよりで、プールのろ過機に起きていた問題が解消され、水泳の授業を行うことができるようになったことを書きました。その授業の成果として、今週だけでも何人かの児童が初めて二十五メートルを泳ぐことができました。また、続けて泳ぐ距離を延ばした児童も何人もいました。先生や友達から称賛の声を浴び、満足そうな表情をしている子供たちを見て、こちらもとてもうれしくなりました。

一方で、先日のネットニュースに、**学校の授業だけでは泳げるようにならない**と題した記事が紹介されていました。記事には、猛暑やプール施設の老朽化、教員の負担軽減などを背景に、学校の水泳授業が減少傾向にあることから、スイミングスクールの需要が高まっていると書かれていました。昔と比べて、条件的には厳しくなっていると思いますが、学校での水泳授業を通して、一人でも多くの子を泳げるようにすることを目指していきたいと思いました。



十四日(火)から十六日(木)までの三日間で、「つってあそべるすいぞくかん」と題した学習の成果発表としての取り組みが行われました。招待状代わりのチケットや魚、難易度の違う針の付いた釣り竿など、すべて手作りの素晴らしい水族館兼釣り堀で、児童も職員も、暑さを忘れて楽しむことができました。学校中を幸せな気持ちにしてくれた児童と、それを支えてくれた職員に対する感謝の気持ちでいっぱいになりました。しかし、それ以上に嬉しかったのは、会場となった教室から退出する際に、子供たちが口にした「**楽しかったです。**」「**ありがとうございます。**」などの言葉でした。この言葉を聞いた児童は、どれほどうれしかったでしょう。きっと、がんばってよかった、次もがんばってみようと思ったに違いありません。

明日から始まる夏休みが、お手伝いをした子供たちにかかる「ありがとう」の声、食事などの身の回りの世話をしてくれた父や母にかかる「ありがとう」の声など、たくさん「ありがとう」にあふれる夏休みであることを願っています。